令和６年度（2024年度）
滋賀大学
教職大学院

大学院教育学研究科 / 高度教職実践専攻

2024 SHIGA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF EDUCATION

目　次

１．受験生の皆様へ ……1
２．滋賀大学教職大学院の４つの特徴 ……2
３．教職大学院の目指す人材像 ……3
４．教職大学院の３つのポリシー ……4
５．教職大学院のコース紹介（各コースの概要）……5
5-1　学校経営力開発コース ……6
5-2　教育実践力開発コース ……7
5-3　授業実践力開発コース ……8
5-4　ダイバーシティ教育力開発コース …… 10
６．教職大学院の教育課程と科目一覧 …… 12
７．教職大学院の実習科目一覧 …… 14
８．令和４年度修了生の教育実践課題解決研究報告書題目一覧 …… 15
９．教育データサイエンス人材の育成 …… 16
10．教員スタッフ一覧 …… 18
11．主な学生支援制度 …… 20
12．教職大学院説明会・令和６年度入試日程・募集人員 …… 21

受験生の皆様へ

高度な専門性を備え、地域の期待に応えることのできる教員を育てます

滋賀大学大学院教育学研究科　研究科長　**徳　田　陽　明**

滋賀大学教職大学院（教育学研究科高度教職実践専攻）は、現職教員対象の学校経営力開発コースと教育実践力開発コース、主に学部新卒学生を対象とする授業実践力開発コースそしてダイバーシティ教育力開発コースの４コースからなっています。高度な専門性を備え、地域の期待に応えることのできる教員を育てます。本研究科の教職大学院の特徴は以下の通りです。

① データサイエンス教育
② 確実な教科の指導力を備えた教員の養成
③ 地域の多様な教育的ニーズ（ダイバーシティ）に対応できる教員の養成
④ 教員のキャリアステージに対応した資質・能力の育成と養成する教員像の明確化

①のデータサイエンスの知識・スキルはすべての教員に求められる力です。授業実践力開発コースは②の実現のために設置され、ダイバーシティ教育力開発コースは③の子どもの障害、いじめ・不登校、外国人児童生徒、幼小連携などの多様なニーズに対応するために設置されています。教員のキャリアステージに応じて必要な力を育成するために４つのコースが設置されています（④）。

滋賀大学教職大学院で、自らのステージに合わせて高度な専門性を備えた教員を目指す、そんな意欲あふれる多くの方の入学をお待ちしています。

地域の「新しい学び」創出の拠点となる教職大学院を目指しています

滋賀大学大学院教育学研究科　副研究科長
高度教職実践専攻　専攻長　**久　保　加　織**

滋賀大学教職大学院（専門職学位課程）は、平成 29 年に滋賀県教育委員会や滋賀県内の市町教育委員会との連携・協力のもと開設されました。教員のキャリアステージに対応した４つのコースを設置し、学部新卒学生と現職教員学生が学びあいながら、新しい時代の学校教育・子どもの学びの創出に結びつく高度な専門性と力量を身につけることを目指しています。

授業として、ベースとなる総合的な力量を形成する共通科目と、各コースの目指す力量形成につながるコース科目を開講しています。各コースで５～６タイプ開講する実習科目での学びを活かしながら、実践的で双方向な授業を研究者教員と実務家教員が協働して企画・実施し、理論と実践を融合させた高度な学修につないでいます。また、学生が自らの教育実践課題に応じて他コースの科目を受講できるようにコース連携科目も設定しています。さらに、令和６年度からは、文部科学省から「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」に選定され、教育の DX 化とそのための GIGA スクール構想に対応する地域リーダーとなる教員を輩出するプログラムを希望者対象で開始します。日本で初めてデータサイエンス学部・研究科を設置した滋賀大学の教職大学院ならではの挑戦的な取組です。

意欲ある方々に、教職生活の基盤づくりとして、あるいは、自らが教育 DX 化推進の起爆剤となることを目指して、滋賀大学教職大学院を選択いただけたらと願っています。

滋賀大学教職大学院の４つの特徴

社会の変化や諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性･社会性を備えた力量ある教員が求められています。このため、教員養成教育の改善・充実を図るべく、高度専門職業人養成としての教員養成に特化した専門職大学院が本学の教職大学院です。

社会の変化や諸課題に対応しうる高度な専門性を備えた力量ある教員の養成という基本理念に加えて、滋賀大学教職大学院は、次の４つの特徴により充実・発展しています。

①データサイエンス教育の導入

将来予測が難しい社会において、適切な情報の活用による子どもの主体的な価値創造の能力を育成するためには、教師自身がデータを読み解き利活用する能力、すなわちデータサイエンスの基礎的な力を身に付けることが求められます。また、日々の教科指導や学級経営などの教育実践を、エビデンスに基づいたアプローチによって振り返り、改善していくことがこれからの教師には必要です。そこで、データサイエンス教育の拠点大学としての滋賀大学の強みを活かし、データサイエンス基礎力を基盤的能力として教育課程に位置付けています。

②確実な教科の指導力を備えた教員の養成

「授業実践力開発コース」では、教科の専門性や高度な教材開発力・指導力等を確実に身につけた新人教員を養成します。教科指導力、教材開発力、授業実践力の向上を目指す科目は、コース間連携科目として、すべてのコースの学生も履修可能として設定されています。

③地域の多様な教育的ニーズ（ダイバーシティ）に対応できる教員の養成

「ダイバーシティ教育力開発コース」では、障害、いじめ・不登校、外国人児童生徒、幼小連携等、多様な教育的ニーズに対応できる高度な専門性を身につけ、その専門性を活かして学校教育に貢献する教員を養成します。

④教員のキャリアステージに対応した資質・能力の育成と養成する教員像の明確化

高度専門職業人としての教職生活全体を支える観点から、学部新卒学生および現職教員学生のそれぞれのキャリアステージに応じて必要な資質・能力を育成するコース編成とします。滋賀県の「人材育成指標」との対応関係も重視します。学部新卒学生を主な対象とした上記コースは、準備ステージから第Ⅰステージ（実践力形成期）の教科・学級担当としての実践力を備えた新人教員を養成します。教育実践力開発コースでは、第Ⅱステージ（成熟発展期）に求められる学校、地域、学年、分掌等におけるミドルリーダーとしての資質・能力を育成します。学校経営力開発コースでは、単位学校を超えた視野を備え、地域レベルで学校改善をけん引できる教育行政職を含めたトップリーダーとしての資質・能力を育成します。

教職大学院の目指す人材像

本専攻の目指す人材像は、次の通りであり、この資質と意欲を持った者を求めます。

現職教員学生は、本専攻修了後、教頭や指導主事、研究主任や教務主任など、学校改革の中核として働くことが期待され、将来は地域教育界のリーダーや管理職として働く教員になることを目指します。

学部新卒学生は、修了後、これまで以上に即戦力となる授業実践力を身につけた教員となり、就職後は、広い視野に立って教育活動を俯瞰し、同僚と協働しながら、学校改革や授業改善を牽引できる教員となるべく自己研鑽に努めることを目指します。

■期待する目標

教職大学院の３つのポリシー

学校経営力開発コースは、スクールリーダー、特に地域リーダーを目指す教職経験 15 ～ 20 年前後の現職教員学生を対象とします。教育実践力開発コースは、ミドルリーダーを目指す教職経験６～ 15 年前後の現職教員学生を対象とします。授業実践力開発コースは、確かな実践力や教科指導力などを身に付けた新人教員の育成を目指して主に学部新卒学生を対象とします。ダイバーシティ教育力開発コースは、多様な教育的ニーズを抱える子どもの発達を支える専門性を備えた教員の育成を目指して学部新卒学生や現職教員学生を対象とします。教職大学院の３つのポリシー、すなわち、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（求める学生像）は、次の通りです。

ディプロマ・ポリシー

教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）では、以下の能力を身に付けた学生に対して、教職修士（専門職）の学位を授与する。高度教職実践専攻では、以下の能力を修得することを修了認定の基準とする。

① 学び・成長し続けるための自己省察力
② 新たな学びを生み出すための学校課題解決力
③ 同僚教師、専門家、地域との協働力
④ データサイエンス基礎力
⑤ 教職経験に応じて高めるべき能力：学校経営企画力（学校経営力開発コース）、新しい学びの構想力（教育実践力開発コース）、科学的・俯瞰的な視点から授業をデザインする力（授業実践力開発コース）、子どもの発達を支える専門的能力（ダイバーシティ教育力開発コース）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の一部抜粋

ディプロマ・ポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するために、以下の方針に従って、高度教職実践専攻のカリキュラムを編成する。

○教育課程編成の一般原則

本専攻の教育課程は、次の５つの視点で編成する。

① 現代的な諸課題をテーマに、最新の専門理論・技術と実践を往還
② 時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践
③ 地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
④ 地域の関係機関との連携による教育実践に関する充実した実習
⑤ 到達目標の達成度にもとづいた成績評価

以下、○共通科目の編成方針、○コース科目の編成方針、○実習科目の編成方針、○教育方法、○学修成果の評価方法については、募集要項参照

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

① 本専攻の学修に必要な基礎的能力や教育実践経験を有する人
② 学校や地域が直面する諸課題の解決に強い意欲をもつ人
③ 教員としての基本的資質・能力を有し、実践的指導力向上への意欲をもつ人
④ 研究成果を学校や地域の教育に還元しようとする熱意をもつ人

教職大学院のコース紹介（各コースの概要）

学校経営力開発コース

本コースでは、学校単位はもちろん地域レベル（中学校区や自治体等の圏域）も含む学校改善を牽引できるトップリーダー（地域リーダー）の養成を目指します。そのために、学校や地域レベルの改革の理念の構築と具体化にかかる教育政策立案能力、学校経営企画力、学校マネジメント力、改革の理念を学校内で共有及び地域に発信するコミュニケーション力、地域連携協働力を育成します。

本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県教育委員会策定の「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」において管理職に求められている「学校教育の原動力」「学校経営の推進力」「関係機関との連携力」の３つの資質能力と連動しています。とりわけ滋賀県では、市町等地域レベルでの課題解決が期待される教育課題が多いことから、本コースにおいては、地域の教育課題を一学校の単位を超えて俯瞰的に把握し解決する課題解決力や、地域と歩む学校づくりを推進する連携協働力の育成に、より力を注ぎ、重点を置きます。

教育実践力開発コース

本コースでは、新たな教育実践を追究し、学校内外で推進できるミドルリーダーの養成を目指します。そのため、授業改善やカリキュラムマネジメントを行うカリキュラム開発力、新しい学びの構想力、広い視野から子どもを多面的に捉えて学びの基礎をつくる生徒指導や学校経営を行う実践力、学校や地域との連携力、若手教員の実践力向上に取り組む協働力などを育成します。

本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県教育委員会策定の「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」の教諭職・第Ⅱから第Ⅲステージの指標とされる「学年・分掌等を見据えた」、「学校全体を見据えた」実践力に連動するものです。本コースでは、各自のこれまでの 10 年前後にわたる教職経験を振り返り、現場の現状・可能性を省察し、自らの実践課題を選択し追究する「教育実践課題解決」を中軸に据え、より高度な教育実践力を校内や地域で協働的に展開していけるように力を注ぎます。

授業実践力開発コース

本コースでは、主に学部新卒学生を対象とし、確実な授業実践力、教科指導力、学級経営力を備え、新しい学びを推進できる新人教員の養成を目指します。そのため、学部での学修を発展させ、科学的・俯瞰的な視点から授業をデザインする力、同僚や保護者等との協働力やコミュニケーション力などを育成します。

本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県教育委員会策定の「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」の準備ステージ（採用前段階）を超えた第Ⅰステージにおける「学級・教科担当等を中心にした実践」につながり、その中で求められている「教材研究力」、「学習形態の工夫や適切な指導方法」、「児童生徒理解」、「同僚とのコミュニケーション」、「保護者との連携」等とも連動しています。

ダイバーシティ教育力開発コース

本コースでは、多様な教育的ニーズを抱える子どもの育ちを広い視野から的確に捉え、発達と心の健康を支える専門性を備えた教員の養成を目指します。そのために、特別支援教育・インクルーシブ教育の推進力、関係者・関係機関と連携しながら学校を支援できるコーディネート力、多様な教育的ニーズに応じた個別の指導計画や教育支援計画等の編成力、心理検査の知識と理解をベースとしたアセスメント力を育成します。

本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県が策定している「滋賀のめざす特別支援教育ビジョン（実施プラン）」（平成 28 年３月）において具体的に取り組むべき事項として示されている「発達段階に応じた指導の充実」、「教員の指導力や専門性の向上」、「教育における連携（役割分担）の推進」等に直結します。また、日本語指導が必要な外国人児童生徒等（日本国籍の児童生徒を含む）が滋賀県において近年再び増加しており、今後さらに増加が見込まれることから、滋賀県が目指すきめ細やかな支援の充実や教育機会の確保・共生についても理解を深めます。

学校経営力開発コース

● 学校経営力開発コース　コースで養成する教員像と育成する資質能力

対象学生	養成する教員像	育成する資質能力
現職教員	学校や地域の教育課題を俯瞰的に把握し解決する課題解決力、学校の組織・カリキュラムを改革できる学校マネジメント力、地域と歩む学校づくりを推進する連携協働力を備えて、**地域レベルの学校改善を牽引できるトップリーダー（地域リーダー）**	・学校・地域の教育課題に効果的に対応する教育政策立案能力等の学校経営企画力 ・学校の組織とカリキュラムを改革できる学校マネジメント力 ・改革の理念を学校内で共有し、地域に発信するコミュニケーション力 ・地域と一体となって教育力を発揮する学校づくりを推進する、危機管理力を含む地域連携協働力

● 学校経営力開発コース　科目配当（授業時間割）イメージ

共通科目　コース科目　コース連携科目　実習科目

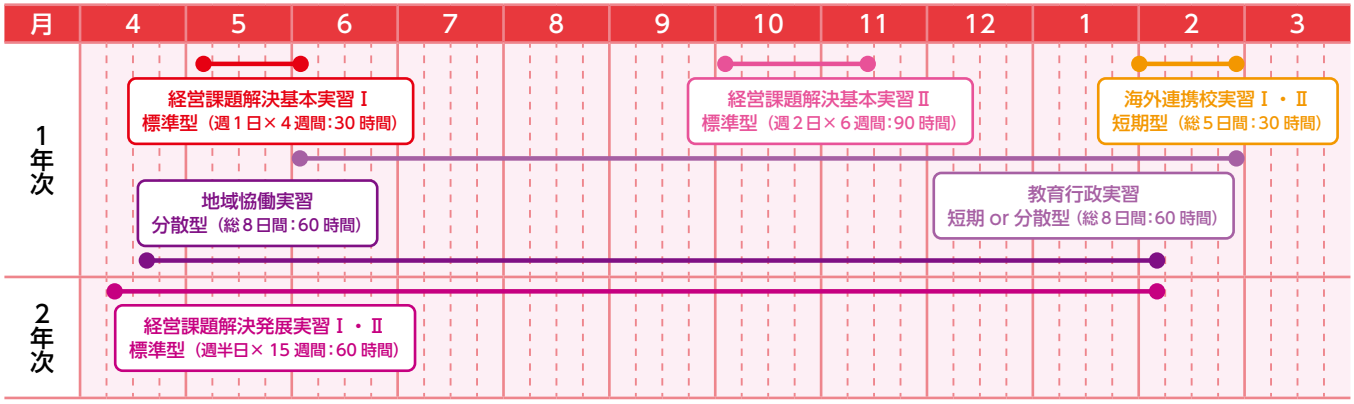
◎他コースの院生も受講可
赤字：ダブルメジャープログラム科目

			月	火	水	木	金	土
1年次	春学期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践	メンタリングと校内研修	【必】経営課題解決基本実習Ⅰ　※春集中 【必】地域協働実習　※通年集中 【必】教育行政実習　※通年集中	【必】学校教育におけるデータサイエンス	【必】経営課題解決基本実習Ⅰ　※春集中 【必】地域協働実習　※通年集中 【必】教育行政実習　※通年集中	
		2限	【必】学校組織マネジメント研究	【必】現代社会の課題と教員役割		【必】学校安全・学校危機管理に関する実践的研究		
		3限	【必】学校経営と教育リーダーシップ	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践		【必】教職員の職能開発システムに関する実践的研究		
		4限	◎教育法規の理論と実践	【必】授業実践の探究と教育課程		学校教育におけるデータサイエンス演習		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究Ⅰ・Ⅴ（経営）					
			集中科目：教育方法の開発と実践研究 《奇数》特別支援教育授業研究、《奇数》障害児の病理と教育支援、《奇数》障害児の心理と学校教育、《偶数》障害児の心理と子ども支援、《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究					
	秋学期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価		【必】経営課題解決基本実習Ⅱ　※秋集中 【必】地域協働実習　※通年集中 【必】教育行政実習　※通年集中	【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践	【必】経営課題解決基本実習Ⅱ　※秋集中 【必】地域協働実習　※通年集中 【必】教育行政実習　※通年集中	
		2限	【必】カリキュラムマネジメントと校内研修	【必】メディア活用実践研究 【必】滋賀の教育課題と指導方法		◎学校と地域の連携協働に関する実践的研究		
		3限	教育・保育の方法と省察	【必】教育政策・教育行政の理論と実践		【必】ダイバーシティ教育の理論と実践		
		4限				教育実践のためのデータ分析 教育実践のためのデータサイエンス		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究Ⅱ・Ⅵ（経営）	子どもの心の臨床心理学的理解と支援				
			集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ	集中科目：《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 《偶数》障害児の病理と健康支援、《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題				

			月	火	水	木	金	土
2年次	春学期	1限		メンタリングと校内研修				
		2限				特別支援教育の臨床的探究		【選必】教育実践課題解決研究Ⅲ・Ⅶ（経営）
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践					
		4限						
		5限						
			集中科目：教育方法の開発と実践研究 《奇数》特別支援教育授業研究、《奇数》障害児の病理と教育支援、《奇数》障害児の心理と学校教育、《偶数》障害児の心理と子ども支援、《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究					
	秋学期	1限						
		2限				幼年教育の理論と実践		【選必】教育実践課題解決研究Ⅳ・Ⅷ（経営）
		3限	教育・保育の方法と省察	外国人児童生徒教育の理論と実践				
		4限						
		5限		子どもの心の臨床心理学的理解と支援				
			集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ	集中科目：《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 《偶数》障害児の病理と健康支援、《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題				
	通年		集中科目：【選必】経営課題解決発展実習Ⅰ・Ⅱ					

【頭記号の意味】【必】必修科目　【選必】選択必修科目　《奇数》奇数年度開講　《偶数》偶数年度開講
※ 授業実践力開発コースのコース連携科目は授業実践力開発コースの科目表で確認

● 学校経営力開発コース　実習科目学修イメージ



教育実践力開発コース

● 教育実践力開発コース　コースで養成する教員像と育成する資質能力

対象学生	養成する教員像	育成する資質能力
現職教員	広い視野で教育活動を俯瞰し、同僚と協働して、校内研修を企画し、教科指導や生徒指導を牽引できる**高度な教育実践力を備えたミドルリーダー**	・授業改善に向けた多面的評価や学校独自のカリキュラムマネジメントを行うカリキュラム開発力 ・新たな教育課題を発見・探究し、解決に向かう新しい学びの構想力 ・学校や地域との連携、同僚（とりわけ若手教員）の支援を通じて、教育力の向上に取り組むための協働力や支援力

● 教育実践力開発コース　科目配当（授業時間割）イメージ

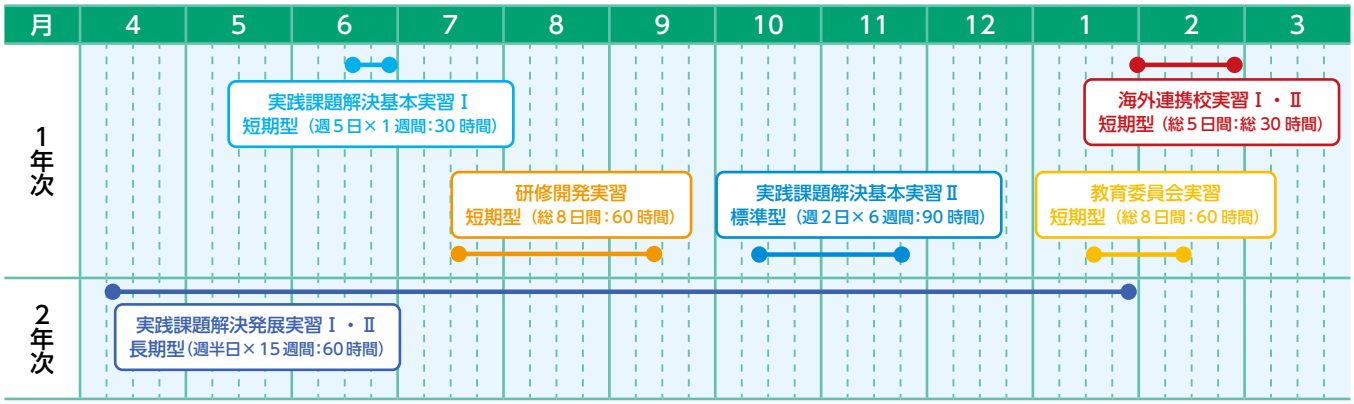
共通科目　コース科目　コース連携科目　実習科目　◎他コースの院生も受講可　赤字：ダブルメジャープログラム科目

			月	火	水	木	金	土
1年次	春学期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践	◎【必】メンタリングと校内研修	【必】実践課題解決基本実習Ⅰ　※春集中 【必】研修開発実習　※春集中	【必】学校教育におけるデータサイエンス	【必】実践課題解決基本実習Ⅰ　※春集中 【必】研修開発実習　※春集中	
		2限		【必】現代社会の課題と教員役割				
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践		特別支援教育の臨床的探究		
		4限	教育法規の理論と実践	【必】授業実践の探究と教育課程		学校教育におけるデータサイエンス演習		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究Ⅰ・Ⅴ（教育実践）					
		集中科目：【必】◎教育方法の開発と実践研究		集中科目：教育方法の開発と実践研究　《奇数》特別支援教育授業研究、《奇数》障害児の病理と教育支援、《奇数》障害児の心理と学校教育 《偶数》障害児の心理と子ども支援、《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究			
	秋学期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価		【必】実践課題解決基本実習Ⅱ　※秋集中 教育委員会実習　※秋集中	【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践	【必】実践課題解決基本実習Ⅱ　※秋集中 教育委員会実習　※秋集中	
		2限		【必】メディア活用実践研究 【必】滋賀の教育課題と指導方法		幼年教育の理論と実践 学校と地域の連携協働に関する実践的研究		
		3限	【必】社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育	外国人児童生徒教育の理論と実践		【必】ダイバーシティ教育の理論と実践		
		4限	【必】学校教育のアクションリサーチ			教育実践のためのデータ分析 教育実践のためのデータサイエンス		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究Ⅱ・Ⅵ（教育実践）	子どもの心の臨床心理学的理解と支援				
		集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ		集中科目：《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 《偶数》障害児の病理と健康支援、《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題				

			月	火	水	木	金	土
2年次	春学期	1限						
		2限						【選必】教育実践課題解決研究Ⅲ・Ⅶ（教育実践）
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践			特別支援教育の臨床的探究		
		4限	教育法規の理論と実践					
		5限						
		集中科目：教育方法の開発と実践研究　《奇数》特別支援教育授業研究、《奇数》障害児の病理と教育支援、《奇数》障害児の心理と学校教育 《偶数》障害児の心理と子ども支援、《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究					
	秋学期	1限						
		2限				幼年教育の理論と実践 学校と地域の連携協働に関する実践的研究		【選必】教育実践課題解決研究Ⅳ・Ⅷ（教育実践）
		3限	教育・保育の方法と省察	外国人児童生徒教育の理論と実践				
		4限						
		5限		子どもの心の臨床心理学的理解と支援				
		集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ		集中科目：《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 《偶数》障害児の病理と健康支援、《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題				
	通年	集中科目：【選必】実践課題解決発展実習Ⅰ・Ⅱ						

【頭記号の意味】【必】必修科目　【選必】選択必修科目　《奇数》奇数年度開講　《偶数》偶数年度開講
※ 授業実践力開発コースのコース連携科目は授業実践力開発コースの科目表で確認

● 教育実践力開発コース　実習科目学修イメージ



授業実践力開発コース

● 授業実践力開発コース　コースで養成する教員像と育成する資質能力

対象学生	養成する教員像	育成する資質能力
主に学部卒生	学級・教科担任として十分な教育実践力、授業実践力と学級経営力、保護者や地域と連携できるコミュニケーション力、同僚教師と協働して**新しい学びを推進できる能力を備えた新人教員**	・学部の学修を発展させたより高度な授業実践力と授業研究力 ・教科横断的な学習における授業実践力 ・教育課題を科学的及び俯瞰的に捉え直す力 ・新しい学びを同僚教師とともに推進する協働力 ・同僚、保護者、地域と連携できるコミュニケーション力 ・学び・成長し続けるための自己省察力

● 授業実践力開発コース　科目配当（授業時間割）イメージ

共通科目　コース科目　コース連携科目　実習科目

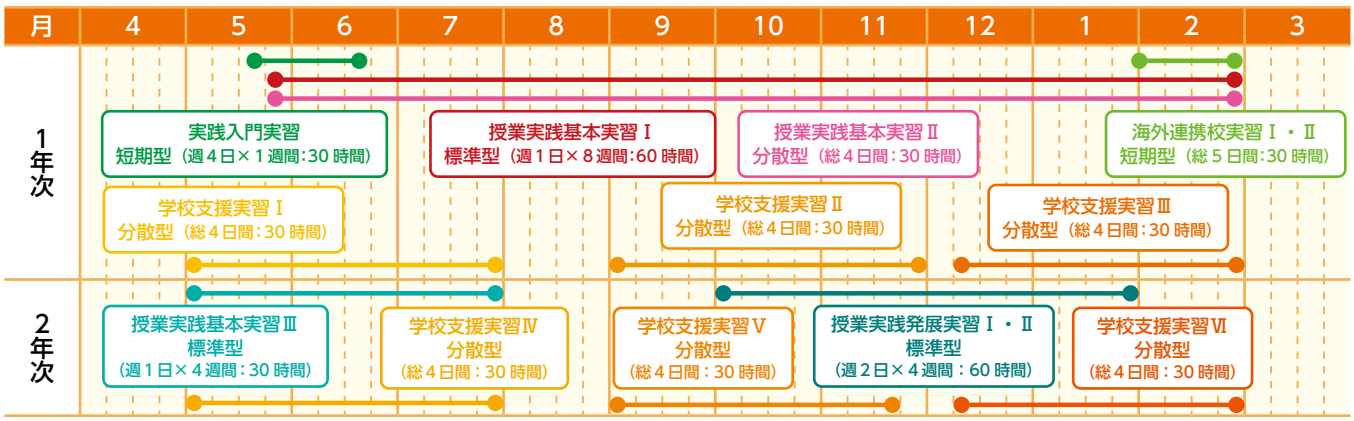
◎他コースの院生も受講可
赤字：ダブルメジャープログラム科目

			月	火	水	木	金	土
1年次	春学期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践	◎《奇数》算数・数学科教材開発研究「関数」 ◎《偶数》数学の実験を活かした数学教育 ◎音楽科教材開発研究「表現」 ◎体力科学実践研究	【必】実践入門実習　※春集中 【必】授業実践基本実習Ⅰ　※通年集中 【必】授業実践基本実習Ⅱ　※通年集中 学校支援実習Ⅰ　※春集中	【必】学校教育におけるデータサイエンス	◎理科の発展的理解と指導法	
		2限		【必】現代社会の課題と教員役割		◎初等芸術教育の理論と実践 ◎社会科・地理歴史科教材開発研究 ◎言語教育実践と教材開発研究 ◎言語学理論と英語科教材開発への応用	◎古典教育と教材開発研究	
		3限	◎音楽科教材開発研究「鑑賞」	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践		◎初等理数教育の理論と実践 ◎英米文学と英語科教材開発への応用	◎技術科教育教材開発研究	
		4限	【必】教師のキャリア発達と教育実践	【必】授業実践の探究と教育課程		学校教育におけるデータサイエンス演習		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究Ⅰ・Ⅴ（授業実践）	◎初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ◎美術科教材開発研究「造形表現」				
			集中科目：教育方法の開発と実践研究　《奇数》特別支援教育授業研究、《奇数》障害児の病理と教育支援、《奇数》障害児の心理と学校教育 《偶数》障害児の心理と子ども支援、《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究					
	秋学期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価	◎《奇数》算数・数学科教材開発研究「数と形」 ◎《偶数》数学の歴史を活かした数学教育 ◎初等社会科教育の理論と実践 ◎初等体育科教育の理論と実践 ◎健康科学実践研究体	【必】授業実践基本実習Ⅰ　※通年集中 【必】授業実践基本実習Ⅱ　※通年集中 学校支援実習Ⅱ・Ⅲ　※秋集中	【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践		
		2限	◎初等言語教育の理論と実践	【必】メディア活用実践研究 【必】滋賀の教育課題と指導方法		◎社会科・公民科教材開発研究		
		3限		◎家庭科教育教材開発研究		【必】ダイバーシティ教育の理論と実践		
		4限	【必】プログラミング教育の実践と教材開発			授業実践のためのデータ分析		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究Ⅱ・Ⅵ（授業実践）	子どもの心の臨床心理学的理解と支援		授業実践のためのデータサイエンス		
			集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ、《偶数》海外連携校実習Ⅱ		集中科目：《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 《偶数》障害児の病理と健康支援、《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題			

			月	火	水	木	金	土
2年次	春学期	1限		◎《奇数》算数・数学科教材開発研究「関数」 ◎《偶数》数学の実験を活かした数学教育			◎理科観察実験研究「物質・エネルギー」	
		2限						【選必】教育実践課題解決研究Ⅱ・Ⅶ（授業実践）
		3限	スペシャルニーズ教育の理論と実践			特別支援教育の臨床的探究		
		4限	教育法規の理論と実践				◎理科観察実験研究「生命・地球」	
		5限						
			集中科目：【必】授業実践基本実習Ⅲ、学校支援実習Ⅳ		集中科目：教育方法の開発と実践研究　《奇数》特別支援教育授業研究、《奇数》障害児の病理と教育支援、《奇数》障害児の心理と学校教育 《偶数》障害児の心理と子ども支援、《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究			
	秋学期	1限		◎《奇数》算数・数学科教材開発研究「数と形」 ◎《偶数》数学の歴史を活かした数学教育				
		2限				幼年教育の理論と実践 学校と地域の連携協働に関する実践的研究		【選必】教育実践課題解決研究Ⅳ・Ⅷ（授業実践）
		3限	教育・保育の方法と省察	外国人児童生徒教育の理論と実践				
		4限						
		5限		子どもの心の臨床心理学的理解と支援				
			集中科目：【選必】授業実践発展実習Ⅰ・Ⅱ、学校支援実習Ⅴ・Ⅵ 《奇数》海外連携校実習Ⅰ、《偶数》海外連携校実習Ⅱ		集中科目：《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 《偶数》障害児の病理と健康支援、《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題			

【頭記号の意味】【必】必修科目　【選必】選択必修科目　《奇数》奇数年度開講　《偶数》偶数年度開講

● 授業実践力開発コース　実習科目学修イメージ



● 授業実践力開発コース　特色ある授業や実習科目

教師のキャリア発達と教育実践

この授業では、教師のライフストーリー、職業的社会化論、キャリア研究といった教師の成長・発達に関わる学術的・理論的枠組に依拠して、教師がいかに自らの指導観、授業観を形成・変容させ、実践のなかから経験知を生成し、固有の教育実践を確立するにいたるかについて学びます。

初等芸術教育の理論と実践

この授業では、初等教育における芸術科（音楽科、図画工作・美術科）の本質や目標および内容構成、校種間連携や教科横断的な視点から「音楽的な見方・考え方」と「造形的な見方・考え方」を働かせて児童が主体的に意味や価値を創造することができる授業実践について学びます。

教育実践課題解決研究Ⅰ・Ⅱ

この授業では、共通科目、コース別選択科目での学びを深め、実習科目での学びと関連づけながら、各教科教育の理論と実践の往還のあり方について学びます。その上で、各自の実践研究テーマを設定し、それぞれの課題解決のプロセスやその結果を、PDCA サイクルに基づいて省察を行います。

プログラミング教育の実践と教材開発

この授業では、プログラミング教育の実践と教材開発の手法について学びます。各教科の学びを深めると同時にプログラミング的思考を育むためにコンピュータを用いないアンプラグド・プログラミング、タブレットや PC を用いたグラフィックス・プログラミングやサウンド・プログラミングなど、幅広い題材や機材を用いたプログラミングについて学びます。

ダイバーシティ教育力開発コース

● ダイバーシティ教育力開発コース　コースで養成する教員像と育成する資質能力

対象学生	養成する教員像	育成する資質能力
学部卒生 現職教員	発達上の課題や障害、心身疾患・問題、いじめ、不登校、虐待、外国人児童生徒など、多様な教育的ニーズを抱える**子どもの育ちを広い視野から的確に捉えて、発達や心の健康を支える専門性を備えた教員**	・学校園における特別支援教育、インクルーシブ教育の推進力 ・教員、保護者、学校内外の他職種専門家、専門機関との連携を推進し、チーム学校支援に貢献できるコーディネート力 ・多様な教育的ニーズとその背景要因を多面的に見取り、支援方針を立て、個別の指導計画や教育支援計画等を編成できる力 ・心理検査に関する深い知識と理解をベースにしたアセスメント力

● ダイバーシティ教育力開発コース　科目配当（授業時間割）イメージ

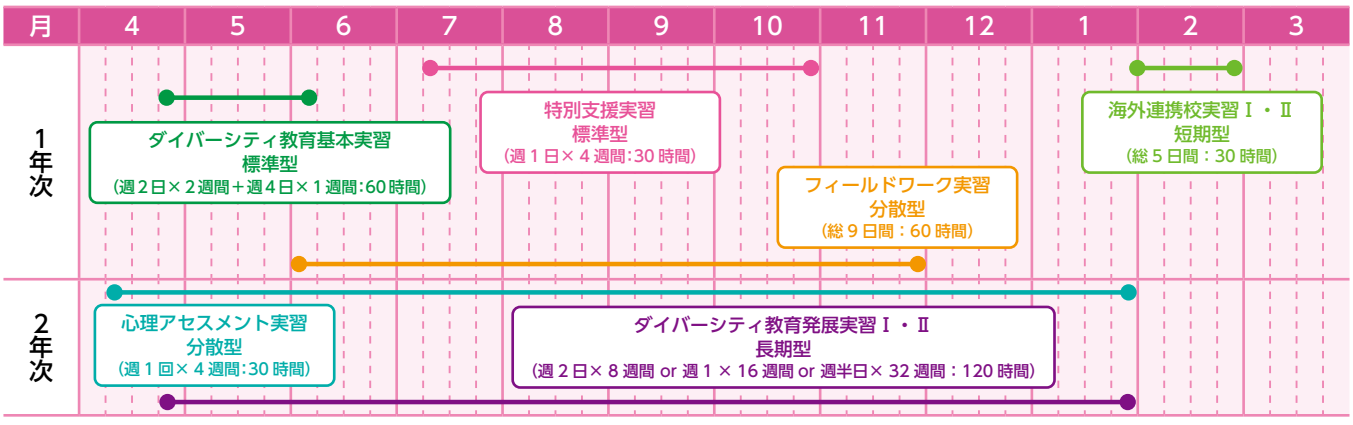
共通科目　コース科目　コース連携科目　実習科目
◎他コースの院生も受講可
赤字：ダブルメジャープログラム科目

			月	火	水	木	金	土
1年次	春学期	1限	【必】教育課程編成の理論と実践	メンタリングと校内研修	【必】ダイバーシティ教育基本実習 ※春集中 【必】特別支援実習 ※通年集中 【必】フィールドワーク実習 ※通年集中	【必】学校教育におけるデータサイエンス	【必】ダイバーシティ教育基本実習 ※春集中 【必】特別支援実習 ※通年集中 【必】フィールドワーク実習 ※通年集中	
		2限		【必】現代社会の課題と教員役割		子どもの発達と支援		
		3限	◎【必】スペシャルニーズ教育の理論と実践	【必】生徒指導・教育相談の理論と実践		◎特別支援教育の臨床的探究		
		4限	教育法規の理論と実践	【必】授業実践の探究と教育課程		学校教育におけるデータサイエンス演習		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究 A Ⅰ・Ⅴ（ダイバーシティ） B Ⅰ・Ⅴ（ダイバーシティ）					
			集中科目：◎《奇数》特別支援教育授業研究、◎《奇数》障害児の病理と教育支援、◎《奇数》障害児の心理と学校教育 ◎《偶数》障害児の心理と子ども支援、◎《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、◎《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究					集中科目：教育方法の開発と実践研究
	秋学期	1限	【必】確かな学力を伸ばす指導と評価		【必】特別支援実習 ※通年集中 【必】フィールドワーク実習 ※通年集中	【必】学びの基盤となる学級経営の探究 【必】学校経営の理論と実践	【必】特別支援実習 ※通年集中 【必】フィールドワーク実習 ※通年集中	
		2限		【必】メディア活用実践研究 【必】滋賀の教育課題と指導方法		◎幼年教育の理論と実践		
		3限	◎教育・保育の方法と省察	◎外国人児童生徒教育の理論と実践		【必】ダイバーシティ教育の理論と実践		
		4限		【必】心理的アセスメントと子ども支援		教育実践のためのデータ分析 教育実践のためのデータサイエンス		
		5限	【選必】教育実践課題解決研究 A Ⅱ・Ⅶ（ダイバーシティ） B Ⅱ・Ⅶ（ダイバーシティ）	◎【必】子どもの心の臨床心理学的理解と支援				
			集中科目：◎《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 ◎《偶数》障害児の病理と健康支援、◎《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題					集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ

			月	火	水	木	金	土
2年次	春学期	1限		メンタリングと校内研修				
		2限						【選必】教育実践課題解決研究 A Ⅲ・Ⅶ（ダイバーシティ） B Ⅲ・Ⅶ（ダイバーシティ）
		3限						
		4限	教育法規の理論と実践					
		5限						
			集中科目：◎《奇数》特別支援教育授業研究、◎《奇数》障害児の病理と教育支援、◎《奇数》障害児の心理と学校教育 ◎《偶数》障害児の心理と子ども支援、◎《偶数》障害児の発達診断・発達相談演習、◎《偶数》特別支援教育の教育方法学的探究					集中科目：教育方法の開発と実践研究
	秋学期	1限						
		2限				学校と地域の連携協働に関する実践的研究		【選必】教育実践課題解決研究 A Ⅳ・Ⅷ（ダイバーシティ） B Ⅳ・Ⅷ（ダイバーシティ）
		3限						
		4限						
		5限						
			集中科目：◎《奇数》多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 ◎《偶数》障害児の病理と健康支援、◎《偶数》特別支援教育の現代的実践と課題					集中科目：《奇数》海外連携校実習Ⅰ 《偶数》海外連携校実習Ⅱ
	通年		集中科目：【選必】ダイバーシティ教育発展実習Ⅰ・Ⅱ、【必】心理アセスメント実習					

【頭記号の意味】【必】必修科目　【選必】選択必修科目　《奇数》奇数年度開講　《偶数》偶数年度開講
※ 授業実践力開発コースのコース連携科目は授業実践力開発コースの科目表で確認

● ダイバーシティ教育力開発コース　実習科目学修イメージ



● ダイバーシティ教育力開発コース　特色ある授業や実習科目

ダイバーシティ教育基本実習

通常学級における特別なニーズをもつ子どもたちの参与観察を行い、一人ひとりの課題を理解することを学びます。

- 大津市内幼稚園における特別な支援を要する幼児の参与観察
- 大津市内小学校における通常クラスの児童の参与観察
- 大津市内小学校における特別支援学級・交流学級の児童の参与観察

特別支援実習

附属特別支援学校において指導案作成、教材･教具づくり、授業の実施、授業研究会への参加などを通して、特別支援学校での児童生徒の発達や障害特性に合わせた教育活動・授業づくりについて学びます。

フィールドワーク実習

学校外の子どもの教育や生活に関連する施設を訪れ、多様な教育的ニーズをもつ子どもたちへの教育的対応を知り、学校とのつながりや連携について学びます。

- 外国人児童生徒日本語初期指導教室
- 少年鑑別所
- 障害者支援施設
- 発達障害者就労支援施設
- 教育相談センター
- 適応指導教室　等

心理アセスメント実習

附属特別支援学校の児童生徒に対する発達検査場面に同席・カンファレンスに参加し、それに基づく学習支援を考え実践します。また、附属学校園で実施されている学習・発達支援室の活動に帯同し、通常の学級における特別な支援を要する子どもへの具体的な対応や連携のあり方について学びます。

知能検査や発達検査、投影法など様々な心理的アセスメントについての実践的な学び

ディスカッションやグループワークを導入し、集団的な学びを大切にした講義

多様な教育的ニーズをもつ子ども（学びにくさを感じている子ども）たちの「わかる」を支える教材研究、授業づくり

教職大学院の教育課程と科目一覧（令和５年度）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	担当教員	備考欄
共通科目		【教育課程の編成及び実施に関する領域】					
		教育課程編成の理論と実践	1春	2		岸本、大橋、北村	
		授業実践の探究と教育課程	1春	2		山本（は）、青木	
		【教科等の実践的な指導方法に関する領域】					
		確かな学力を伸ばす指導と評価	1秋	2		岸本、大橋、北村	
		メディア活用実践研究	1秋	1		岩井、青木	
		滋賀の教育課題と指導方法	1秋	1		藤岡、奥田、久保、林（睦）、今井、前田	
		【生徒指導及び教育相談に関する領域】					
		生徒指導・教育相談の理論と実践	1春	2		若松、芦谷、前田	
		ダイバーシティ教育の理論と実践	1秋	2		窪田、児玉、三輪、山川	
		【学級経営及び学校経営に関する領域】					
		学びの基盤となる学級経営の探究	1秋	1		蔵永、岸田	
		学校経営の理論と実践	1秋	1		大野、今井、岸田	
		【学校教育と教員の在り方に関する領域】					
		現代社会の課題と教員役割	1春	2		藤岡、今井	
		学校教育におけるデータサイエンス	1春	2		若松、太田、奥村、篠原、大橋	
		小計（11科目）	－	18	0	－	
実習科目	学校経営力開発コース	経営課題解決基本実習Ⅰ	1春	1		大野、藤岡、藤村、今井、前田	
		経営課題解決基本実習Ⅱ	1秋	3		大野、藤岡、藤村、今井、前田	
		経営課題解決発展実習	2通	2		大野、藤村、今井	
		地域協働実習	1通	2		藤岡、今井	
		教育行政実習	1通	2		大野、藤村、今井	
		小計（5科目）	－	10	0	－	
	教育実践力開発コース	実践課題解決基本実習Ⅰ	1春	1		岸本、辻、山本（は）、若松、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		実践課題解決基本実習Ⅱ	1秋	3		岸本、辻、山本（は）、若松、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		実践課題解決発展実習	2通	2		岸本、辻、山本（は）、若松、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		研修開発実習	1春	2		岸本、辻、山本（は）、若松、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		教育委員会実習	1秋		2	岸本、辻、山本（は）、若松、青木、岸田、北村、前田	
		小計（5科目）	－	8	2	－	
	授業実践力開発コース	実践入門実習	1春	1		青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、岸田、北村、山川、大矢、楠見、河野	
		授業実践基本実習Ⅰ	1通	2		青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、岸田、北村、山川、大矢、楠見、河野	
		授業実践基本実習Ⅱ	1通	1		大橋、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、青木、岸田、北村、山川、大矢、楠見、河野	
		授業実践基本実習Ⅲ	2春	1		村田、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、山田、青木、大橋、岸田、北村、山川、大矢、楠見、河野	
		授業実践発展実習	2秋	2		村田、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、山田、青木、大橋、岸田、北村、山川、大矢、楠見、河野	
		学校支援実習Ⅰ	1春		1	青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、大矢、楠見、河野、木村	
		学校支援実習Ⅱ	1秋		1	青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、大矢、楠見、河野、木村	
		学校支援実習Ⅲ	1秋		1	青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、大矢、楠見、河野、木村	
		学校支援実習Ⅳ	2春		1	青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、大矢、楠見、河野、木村	
		学校支援実習Ⅴ	2秋		1	青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、大矢、楠見、河野、木村	
		学校支援実習Ⅵ	2秋		1	青木、太田、久保、高澤、岳野、長岡、林（睦）、村田、山田、大橋、大矢、楠見、河野、木村	
		小計（11科目）	－	7	6	－	
	ダイバーシティ教育力開発コース	ダイバーシティ教育基本実習	1春	2		奥田、山本（一）、山川	
		特別支援実習	1通	1		松島、窪田、羽山、山川、木村	
		フィールドワーク実習	1通	2		芦谷、奥田、窪田、児玉、松島、渡部、大橋、岸田、山川	
		心理アセスメント実習	2通	1		窪田、白石、松島、山川	
		ダイバーシティ教育発展実習	2通	4		芦谷、奥田、窪田、松島、渡部、青木、大橋、岸田、北村、山川	
		小計（5科目）	－	10	0	－	
	各コース共通	海外連携校実習Ⅰ	1･2通		1	岸本、奥田、高澤、岳野、辻、藤村、青木、大橋、岸田、山川	
		海外連携校実習Ⅱ	1･2秋		1	辻、大野、奥田、岸本、岳野、高澤、青木、大橋、岸田、北村	
		小計（2科目）	－	0	2	－	
コース別選択科目	学校経営力開発コース	学校組織マネジメント研究	1春	2		大野、前田	
		学校経営と教育リーダーシップ	1春	2		大野、今井	
		教職員の職能開発システムに関する実践的研究	1春	2		大野、藤村、今井	
		カリキュラムマネジメントと校内研修	1秋	2		大野、今井	
		教育政策・教育行政の理論と実践	1秋	2		藤村、今井、前田	
		学校安全・学校危機管理に関する実践的研究	1春	2		藤岡、今井	
		学校と地域の連携協働に関する実践的研究	1秋		2	大野、今井	◎
		教育法規の理論と実践	1春		2	渡邊（暁）、大野、前田	◎
		教育実践課題解決研究Ⅰ（経営）	1春	1		大野、藤岡、藤村、今井	
		教育実践課題解決研究Ⅱ（経営）	1秋	1		大野、藤岡、藤村、今井	
		教育実践課題解決研究Ⅲ（経営）	2春	1		大野、藤岡、藤村、今井	
		教育実践課題解決研究Ⅳ（経営）	2秋	1		大野、藤岡、藤村、今井	
		小計（12科目）	－	16	4	－	
	教育実践力開発コース	教育方法の開発と実践研究	1春	2		山本（は）、大橋、岸田、北村	◎
		メンタリングと校内研修	1春	2		辻、大橋	◎
		学校教育のアクションリサーチ	1秋	2		岸本、岸田	
		社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育	1秋	2		若松、前田	
		教育実践課題解決研究Ⅰ（教育実践）	1春	1		若松、岸本、辻、山本（は）、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		教育実践課題解決研究Ⅱ（教育実践）	1秋	1		若松、岸本、辻、山本（は）、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		教育実践課題解決研究Ⅲ（教育実践）	2春	1		若松、岸本、辻、山本（は）、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		教育実践課題解決研究Ⅳ（教育実践）	2秋	1		若松、岸本、辻、山本（は）、青木、大橋、岸田、北村、前田、山川	
		小計（8科目）	－	12	0	－	
	授業実践力開発コース	教師のキャリア発達と教育実践	1春	2		太田、青木、大橋	
		プログラミング教育の実践と教材開発	1秋	2		岳野、右田、青木、大橋	
		初等言語教育の理論と実践	1秋		2	長岡、大嶋、田中（佑）、北村	◎
		言語教育実践と教材開発研究	1春		2	中村、松丸	◎
		古典教育と教材開発研究	1春		2	井ノ口、二宮	◎
		英米文学と英語科教材開発への応用	1春		2	林（直）	◎
		言語学理論と英語科教材開発への応用	1春		2	于	◎
		初等社会科教育の理論と実践	1秋		2	岸本	◎
		社会科・地理歴史科教材開発研究	1春		2	安藤、宇佐見、大清水	◎
		社会科・公民科教材開発研究	1秋		2	渡邊（暁）、齋藤、馬場、宮本	◎
		初等理数教育の理論と実践	1春		2	高澤、加納、渡邊（慶）	◎
		理科の発展的理解と指導法	1春		2	糸乗、大山、恒川、徳田、服部、古橋	◎

コース別選択科目	授業実践力開発コース	理科観察実験研究「生命・地球」	2春		2	服部、大山、古橋	◎
		理科観察実験研究「物質・エネルギー」	2秋		2	糸乗、恒川、徳田	◎
		算数・数学科教材開発研究「数と形」	1･2秋		2	篠原、長谷川	◎
		算数・数学科教材開発研究「関数」	1･2春		2	神、鈴木	◎
		数学の歴史を活かした数学教育	1･2秋		2	篠原、長谷川	◎
		数学の実験を活かした数学教育	1･2春		2	神、鈴木	◎
		初等体育科教育の理論と実践	1秋		2	辻、大平、山田	◎
		体力科学実践研究	1秋		2	松田（繁）、辻	◎
		健康科学実践研究	1秋		2	大平、辻	◎
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践	1春		2	久保、石川、田中（宏）、平松、森、與倉	◎
		家庭科教育教材開発研究	1秋		2	久保、田中（宏）、平松、與倉	◎
		技術科教育教材開発研究	1春		2	岳野、水上、森	◎
		初等芸術教育の理論と実践	1春		2	林（睦）、村田、青木	◎
		美術科教材開発研究「造形表現」	1春		2	藤田、世ノ一	◎
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」	1秋		2	藤田、世ノ一	◎
		音楽科教材開発研究「表現」	1春		2	渡邊（史）	◎
		音楽科教材開発研究「鑑賞」	1春		2	若林、中根	◎
		教育実践課題解決研究Ⅰ（授業実践）	1春	1		岳野、太田、久保、高澤、長岡、林（睦）、村田、山田、青木、大橋、岸田、山川、楠見、河野	
		教育実践課題解決研究Ⅱ（授業実践）	1秋	1		岳野、太田、久保、高澤、長岡、林（睦）、村田、山田、青木、大橋、岸田、山川、楠見、河野	
		教育実践課題解決研究Ⅲ（授業実践）	2春	1		岳野、太田、久保、高澤、長岡、林（睦）、村田、山田、青木、大橋、岸田、山川、楠見、河野	
		教育実践課題解決研究Ⅳ（授業実践）	2秋	1		岳野、太田、久保、高澤、長岡、林（睦）、村田、山田、青木、大橋、岸田、山川、楠見、河野	
		小計（33科目）	－	8	54	－	
	ダイバーシティ教育力開発コース	スペシャルニーズ教育の理論と実践	1春	2		窪田、青木、山川	◎
		子どもの心の臨床心理学的理解と支援	1秋	2		芦谷、青木	◎
		心理的アセスメントと子ども支援	1秋	2		松島、芦谷	
		外国人児童生徒教育の理論と実践	1秋		2	児玉	◎
		特別支援教育の臨床的探究	1春		2	白石、山川	◎
		幼年教育の理論と実践	1秋		2	奥田、山川、大矢	◎
		教育・保育の方法と省察	1秋		2	山本（一）、大矢	◎
		特別支援教育授業研究	1･2春		2	白石	◎
		障害児の発達診断・発達相談演習	1･2春		2	白石	◎
		多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応	1･2秋		2	窪田	◎
		障害児の心理と学校教育	1･2春		2	松島	◎
		障害児の心理と子ども支援	1･2春		2	松島	◎
		特別支援教育の教育方法学的探究	1･2春		2	羽山	◎
		特別支援教育の現代的実践と課題	1･2秋		2	羽山	◎
		障害児の病理と教育支援	1･2春		2	江原	◎
		障害児の病理と健康支援	1･2秋		2	江原	◎
		子どもの発達と支援	1春		2	渡部、江原、木村	
		教育実践課題解決研究ＡⅠ（ダイバーシティ）	1春	1		奥田、渡部、青木、大橋、岸田、北村、山川、大矢	
		教育実践課題解決研究ＡⅡ（ダイバーシティ）	1秋	1		奥田、渡部、青木、大橋、岸田、北村、山川、大矢	
		教育実践課題解決研究ＡⅢ（ダイバーシティ）	2春	1		奥田、渡部、青木、大橋、岸田、北村、山川、大矢	
		教育実践課題解決研究ＡⅣ（ダイバーシティ）	2秋	1		奥田、渡部、青木、大橋、岸田、北村、山川、大矢	
		教育実践課題解決研究ＢⅠ（ダイバーシティ）	1春	1		芦谷、窪田、松島、青木、大橋、岸田、北村、山川、木村	
		教育実践課題解決研究ＢⅡ（ダイバーシティ）	1秋	1		芦谷、窪田、松島、青木、大橋、岸田、北村、山川、木村	
		教育実践課題解決研究ＢⅢ（ダイバーシティ）	2春	1		芦谷、窪田、松島、青木、大橋、岸田、北村、山川、木村	
		教育実践課題解決研究ＢⅣ（ダイバーシティ）	2秋	1		芦谷、窪田、松島、青木、大橋、岸田、北村、山川、木村	
		小計（25科目）	－	14	28	－	
合計（117科目）			－	103	96	－	

（ＡⅠ～Ⅳまたは ＢⅠ～Ⅳ 必修）

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係

修了要件及び履修方法	授業期間等
【修了要件】 本専攻に２年以上在学し、所定の 46 単位以上を修得すること。	１学年の学期区分：　２期 １学期の授業時間：１５週 １時限の授業時間：９０分

【履修方法】

＜全コース共通＞

○共通科目 18 単位（必修）

＜学校経営力開発コース＞

○実習科目（10 単位）

必修科目５科目（10 単位）を履修し、加えて選択科目として各コース共通科目「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各１単位）からも修了要件を超えて履修することができる。

○コース別選択科目（18 単位）

必修科目 10 科目（16 単位）及び選択必修科目「学校安全・学校危機管理に関する実践的研究」「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」の２科目（各２単位）から１科目（２単位）を履修し、計 18 単位を履修する。加えて他コースの備考欄◎印のコース間連携科目からも修了要件を超えて履修することができる。

＜教育実践力開発コース＞

○実習科目（10 単位）

必修科目４科目（８単位）を履修し、加えて「教育委員会実習」（２単位）、各コース共通科目「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各１単位）の３科目から２単位以上を選択必修科目として履修し、計 10 単位を履修する。

○コース別選択科目（18 単位）

必修科目８科目（12 単位）及び他コースの備考欄◎印のコース間連携科目の中から選択必修として６単位を履修し、計 18 単位を履修する。

＜授業実践力開発コース＞

○実習科目（10 単位）

必修科目５科目（７単位）を履修し､加えて選択科目として設定している「学校支援実習Ⅰ～Ⅵ」（各１単位）及び各コース共通科目「海外連携校実習Ⅰ･Ⅱ」（各１単位）の中から３単位以上を選択必修として履修し、計 10 単位を履修する。

○コース別選択科目（18 単位）

必修科目６科目（８単位）及び同コース内の選択必修科目の計 27 科目（54 単位）から５科目（10 単位）以上を履修し、計 18 単位を履修する。加えて他コースの備考欄◎印のコース間連携科目からも修了要件を超えて履修することができる。

＜ダイバーシティ教育力開発コース＞

○実習科目（10 単位）

必修科目５科目（10 単位）履修し、加えて選択科目として各コース共通科目「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各１単位）からも修了要件を超えて履修することができる。

○コース別選択科目（18 単位）

必修科目３科目（６単位）及び「教育実践課題解決研究ＡⅠ～Ⅳ」（計４単位）又は「教育実践課題解決研究ＢⅠ～Ⅳ」（計４単位）のいずれかを履修し、計 10 単位を履修する。加えて同コース内のコース別選択科目の計 14 科目（28 単位）及び他コースの備考欄◎印のコース関連科目から８単位を履修し、計 18 単位を履修する。

（履修科目の登録の上限：１学期に履修登録することができる単位数の上限は 25 単位とする。この場合において、集中授業で行う講義等及び実習科目の単位は含まない。）

教職大学院の実習科目一覧

コース	授業科目名		概　　要	実習場所	開講期	単位数 必修	単位数 選択
学校経営力開発コース	経営課題解決基本実習	Ⅰ	連携協力校（勤務校）で学校経営に参画し、学校教育改革に必要な課題を発見し解決していく方法を探究する。	連携協力校	1	1	−
		Ⅱ			2	3	−
	経営課題解決発展実習Ⅰ・Ⅱ		連携協力校（勤務校）での教育活動を通して、自己の研究課題を事例的に探求・評価・検証し解決していく方法を探究する。	連携協力校	3･4	2	−
	地域協働実習		教育委員会や社会教育施設等の協力を得て、学校と地域教育関連施設との連携・協働の方法を探究する。	教育委員会 社会教育施設等	1･2	2	−
	教育行政実習		教育行政・政策に関する具体的な場面での実践を観察し、政策立案・実施の基礎となる実践力を修得する。	県市町教育委員会 教育委員会関係機関	1･2	2	−
	海外連携校実習	Ⅰ	タイの協定大学及び附属学校等を参観し、教師や子どもとの交流活動を通して、グローバルな視野から教育を探究する。	タイ協定大学及び 協定大学附属学校等	2･4 (隔年)	−	1
		Ⅱ	台湾の協定大学及び附属学校等を参観し、教師や子どもとの交流活動を通して、グローバルな視野から教育を探究する。	台湾協定大学及び 協定大学附属学校等	2･4 (隔年)	−	1
教育実践力開発コース	実践課題解決基本実習	Ⅰ	連携協力校（勤務校）で教育課程全般に亘って参与観察及び支援を行い、教育課題を再発見して解決の方法を探究する。	連携協力校	1	1	−
		Ⅱ			2	3	−
	実践課題解決発展実習Ⅰ・Ⅱ		連携協力校（勤務校）での授業実践等を通して、自己の研究課題を探究・評価する。	連携協力校	3･4	2	−
	研修開発実習		滋賀県総合教育センターで指導補助員として研修企画や評価に参画する。	県総合教育センター	1	2	−
	教育委員会実習		県市町教育委員会等において、学校訪問の参観、研修会や協議会の運営補助を経験し、教育活動を多角に省察する。	教育委員会	2	必ちう 2	2
	海外連携校実習	Ⅰ	前掲	前掲	2･4 (隔年)		1
		Ⅱ					1
授業実践力開発コース	実践入門実習		附属幼稚園・小・中学校において、保育や授業の観察方法について学びつつ、実際に保育・授業観察と分析を行う。	附属学校園	1	1	−
	授業実践基本実習	Ⅰ	附属幼稚園・小学校・中学校の複数の組み合わせを選択し、各校種での保育・授業研究のあり方について学ぶとともに、校種間連携についても学ぶ。	附属学校園	1･2	2	−
		Ⅱ	県市町教育委員会・総合教育センター・教育研究所等の実施事業に参加することを通し、授業実践研究の進め方を学ぶ。	県総合教育センター 市町教育研究所	1･2	1	−
		Ⅲ	附属学校園、連携協力校等で授業等の実践を行い、自己の研究課題を探究する。	附属学校園 連携協力校	3	1	−
	授業実践発展実習Ⅰ・Ⅱ		附属学校園・連携協力校で授業等の実践を行い、自己の研究課題を発展・深化させる。	附属学校園 連携協力校	4	2	−
	学校支援実習	Ⅰ	教職大学院１年次に、公立学校及び附属学校園の教育活動に参加することを通して、学校の１年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら、自己のスキルアップに繋げる。	附属学校園 連携協力校	1	必ちう 3	1
		Ⅱ			2		1
		Ⅲ			2		1
		Ⅳ	教職大学院２年次に、公立学校及び附属学校園の教育活動に参加することを通して、学校の１年間の動きの一端を体験したり、子どもの個別の教育ニーズに対応したりしながら、自己のスキルアップに繋げる。		3		1
		Ⅴ			4		1
		Ⅵ			4		1
	海外連携校実習	Ⅰ	前掲	前掲	2･4 (隔年)		1
		Ⅱ					1
ダイバーシティ教育力開発コース	ダイバーシティ教育基本実習		連携協力校（幼稚園・小学校）で特別な支援を要する子どもの参与観察を行い、教師の支援について学ぶ。	連携協力校	1	2	−
	特別支援実習		附属特別支援学校において、障害のある子どもの発達段階や特性に応じた支援のあり方および教育活動・授業づくりについて学ぶ。	附属学校園	1･2	1	−
	フィールドワーク実習		学校外教育関連施設で施設見学、参与観察等を行いアフターレクチャーにより多様なニーズを抱える子どもへの地域教育連携体制について見通しを持つ。	国県市町・民間の 教育関連施設	1･2	2	−
	心理アセスメント実習		附属学校園での児童生徒の発達検査、「個別の指導計画」の作成、学習・発達支援室の活動などに参加し、心理アセスメントについて実践的に学ぶ。	附属学校園	3･4	1	−
	ダイバーシティ教育 発展実習Ⅰ・Ⅱ		各問題意識に応じたフィールドにおいて、教育的・実践的な支援活動を行い、自己の研究課題を事例的に探究・検証し、これまでの学びを総括する。	附属学校園 連携協力校 その他教育関連施設	3･4	4	−
	海外連携校実習	Ⅰ	前掲	前掲	2･4 (隔年)	−	1
		Ⅱ				−	1

開講期 − 1：1 年次春学期、2：1 年次秋学期、3：2 年次春学期、4：2 年次秋学期

令和４年度修了生の教育実践課題解決研究報告書題目一覧

■ 学校経営力開発コース

現職教員

- 「生きる力」につながる総合的な安全教育
  －子どもの自発的行動力の育成を軸とした学校安全の構築を目指して－
- 職員の親和性向上をとおした組織力開発
  －学校における協働的組織化の方策探究－
- 特別支援教育を軸とした「誰一人取り残さない」学校組織の構築
- 「つながり」を生み出し、協働の仕組みをつくる
  －コミュニティ・スクールの推進と子どもの資質・能力育成の可能性－
- 「地域とともにある学校」の実現をめざした学校の意識変革
  －周年事業を核にした地域とのつながりづくりの推進－
- 若手教員を育成するためのコミュニティの構築を目指して
  －若手教員とともに学び合う教職員集団－

■ 教育実践力開発コース

現職教員

- 特別活動を軸にして育てる主体的な学級集団づくり
  －自己表現できにくい個の変容に着目して－
- 校内研究を日常の授業改善に生かす課題解決型 OJT の取り組み
  －自ら動き出す教員集団をめざして－
- 校内研究における協働的な組織づくり
  －子どもの学びを深めるための ICT 活用方法の模索－
- 授業改善に向けた協働的実践による校内研究の探究
  －小グループによるカンファレンスを中軸に－
- 教員の同僚性の向上を促す研修の在り方の探求
  － OJT 研修に着目して－
- 自己効力感を高める算数科少人数指導の在り方
  －５，６年生を対象に－

■ 授業実践力開発コース

学部新卒生

- 道徳の授業実践における「子どものための哲学」（p4c）の可能性と課題
  －「考え、議論する道徳」の推進に向けて－
- 体力向上を図る中学校体育授業の在り方
  －補強運動時間の活用実践から－
- 保健体育授業における合理的配慮と共に学び合うための支援・方策
  －インクルーシブ教育の視点をもとに－
- 主権者として求められる力を育む小学校社会科の実践
  －小学校５年生の工業単元を事例として議論を軸とした授業モデル－
- 小学校算数科の図形領域における説明する力の育成

■ ダイバーシティ教育力開発コース

現職教員

- 幼稚園教諭の実践知の言語化による実習指導の改善研究
  －タキソノミー表を用いた幼児期の資質・能力の育成と教師の指導の関わり－

学部新卒生

- 滋賀県の特別支援学校における不登校の実態調査
  －アンケート及びインタビューによる統計的，質的分析－
- 数量の保存概念と計算領域との関連

教育データサイエンス人材の育成

これからの社会では情報やデータを活用できることはごく普通のことへと変わっていきます。教育分野においては、教育データサイエンスは学力調査の分析や個別最適化された学びの提供のために必要であり、今後益々重要になります。本学では教育データサイエンスを教育現場で実践できる人材を養成します。

所定の単位を修得すると、滋賀県教育委員会より専修免許状に「教育データサイエンス」が付記されます（予定）。

育成する人材像

- 教育行政におけるデータ利活用環境の整備を牽引できる人材
- 研修センターにおける講師
- 教育データプラットフォーマーへ助言できる人材
- 個々の学校におけるデータ利活用・個別最適な教育を行える人材

教育×データサイエンス
「教育データサイエンス実践学」のエキスパート養成

概要

データサイエンス研究科との連携
教育データサイエンスの理論から実践に至るカリキュラム

滋賀県教育委員会と連携
教職大学院での高度な専門的知識・技能および実践的指導力の獲得

Outputs

即戦力の育成

教育データアナリストとして学校現場および教育行政分野（教育委員会等）で活躍できる人材

博士後期課程への接続

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（連合大学院）

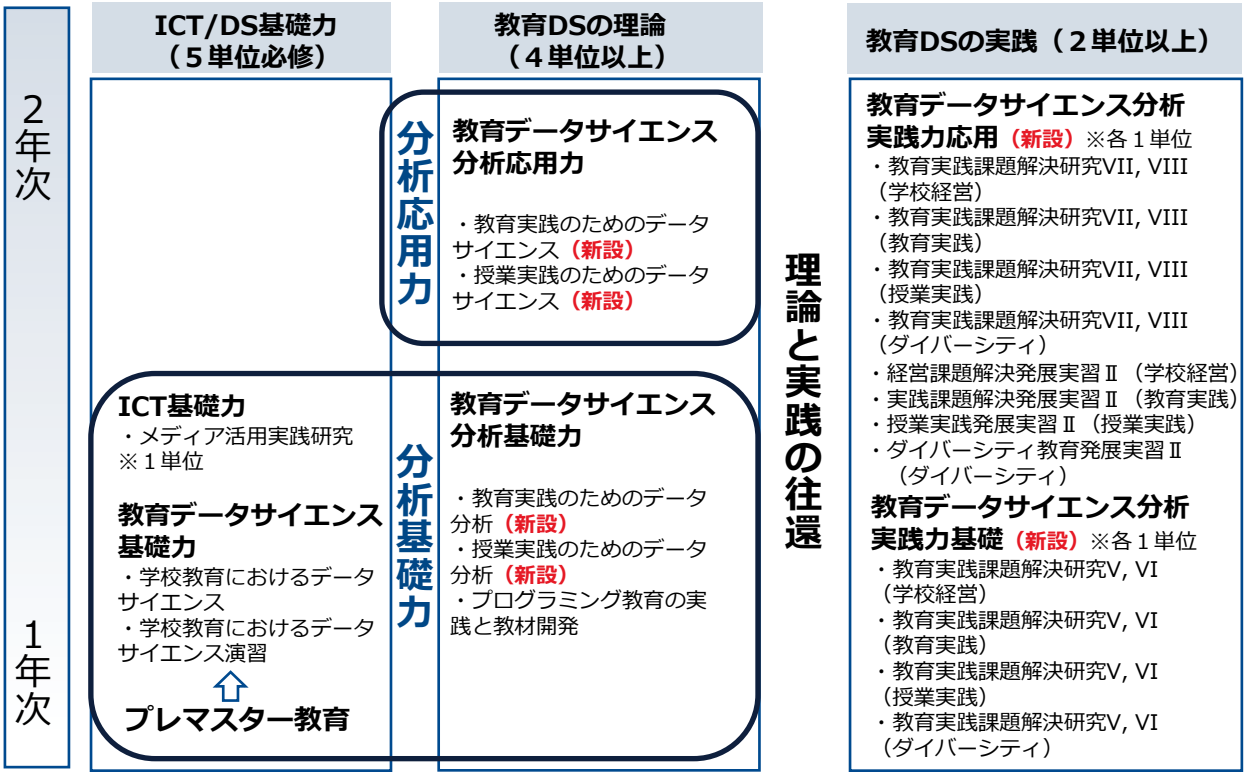
このプログラムでは教職大学院での学びを基盤とし、データサイエンス研究科ならびに滋賀県教育委員会と連携の下、データサイエンスの知識・技術を修得したうえで教育分野においてデータサイエンスを活用し、実データの分析を行うことのできる人材（教育データアナリスト）を育成することを目的とします。

具体的には、学校単位で多様な教育的ニーズに対応した組織的な教育実践を創出できるスクールリーダーや、地域レベル（中学校区や自治体等の圏域）も含む学校改善を牽引できるトップリーダー（地域リーダー）の養成を目指します。さらに、本プログラムにおいて教育におけるデータサイエンス実践学を修得し、エビデンスベースの観点を身につけることで、学校改善や教育改善の視点をもった教員、教育施策形成の司令塔となる教員、学校改善に資するリーダー的教員、データリテラシーに基づく調査・収集の担当教員、各学校におけるデジタルコンテンツ利活用環境のカスタマイズが可能な教員等を養成します。

教職大学院 ICT 室

滋賀大学教育学研究科では、文部科学省からの「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Ｘプログラム～」による補助金を活用して、遠隔での双方向オンライン授業に必要な設備を整備しています。

■カリキュラムの概要（12 単位以上取得）



本プログラムは文部科学省による「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～×プログラム～」により実施します。

教員スタッフ一覧（令和５年４月現在）

【研究者教員】

■ 学校経営力開発コース

大野　裕己 教授	学校のビジョン構築と組織開発、スクールリーダーの力量形成、学校経営改革の日米比較
藤岡　達也 教授	防災教育をはじめとした学校安全・学校危機管理、持続可能な社会をつくる環境教育
藤村　祐子 准教授	教員に関する政策研究

■ 教育実践力開発コース

岸本　　実 教授	カリキュラムと学び、学習評価、多様性の教育についての教育方法研究、社会科教育、総合的な学習、道徳、特別活動に関する理論的・実践的研究
辻　　延浩 教授	教師の職能発達に関する研究、体育科における学習指導と評価に関する実践的研究
山岡　武邦 准教授	教育分野におけるデータサイエンス学に関する研究、STEM/STEAM 教育に関する研究
山本　はるか 准教授	教育評価、学力保障と多文化共生の両立
若松　養亮 教授	青年期の進路意思決定過程の解明と支援

■ 授業実践力開発コース

太田　拓紀 教授	教師の職業的社会化・ライフコース研究、教師教育に関する歴史社会学的研究
久保　加織 教授	食生活教育に関する研究
高澤　茂樹 教授	数学教育における教師と子どもの認識に関わる研究
岳野　公人 教授	STEAM 教育、情報・技術教育に関する研究
長岡　由記 准教授	国語科教育、文字教育に関する研究
林　　睦 教授	音楽のアウトリーチ活動に関する研究、音楽づくりの実践的研究
村田　　透 准教授	造形表現行為における子どもの＜意味＞生成や問題発見・解決に関する研究
山田　淳子 准教授	体育科の授業に関する実践的研究、体育教師教育研究、体力・運動能力と社会情動的スキルに関する研究

■ ダイバーシティ教育力開発コース

芦谷　道子 教授	子どもの心身の問題に対する臨床心理学的支援に関する研究、学校予防教育に関する研究
奥田　援史 教授	子どもに関する事象の教育発達的研究、保育内容（健康）に関する実践的研究
窪田　知子 教授	特別支援教育、多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育
松島　明日香 准教授	発達障害、特に自閉症スペクトラム児の心理学的理解、心理アセスメントの方法論的検討
渡部　雅之 教授	視点取得を中心とする認知の生涯発達とその教育臨床的応用に関する研究

【実務家教員】

青木　善治 教授	学校管理・運営、授業改善、教師の変容を促す研修に関する実践的研究
今井　弘樹 教授	学校経営における管理職のリーダーシップに関する研究
大橋　宏星 准教授	学校改善・授業改善（算数科・数学科）に関する実践的研究
大矢　　明 教授	幼児教育に関する実践的研究、 保育内容（健康）、（表現）に関する実践的研究
河野　卓也 教授	学校改善・授業改善に関する実践的研究、 情報教育・技術教育・エネルギー教育に関する実践的な研究
岸田　蘭子 教授	学校改善・授業改善・学級経営・校内研修に関する実践的な研究
北村　拓也 准教授	学校改善・授業改善（国語科）に関する実践的研究
木村　政秀 教授	特別支援教育に関する実践的研究
楠見　丹生子 准教授	学校改善・授業改善（音楽科）に関する実践的な研究
前田　利幸 准教授	学校組織マネジメント、教育法規、生徒指導、教育相談等を視点とする学校力及び教師力の向上に関する実践的研究
山川　直孝 准教授	特別支援学校における教育課程に関する実践的研究、 行動問題を示す子どもの支援に関する実践的研究

【授業担当教員】

教育学：三輪　貴美枝
教育心理学：蔵永　瞳
幼児教育：山本　一成
環境教育：石川　俊之・森　太郎
国語教育：井ノ口　史・中村　史朗・二宮　美那子・松丸　真大
社会科教育：安藤　哲郎・宇佐見　隆之・大清水　裕・齋藤　浩文・馬場　義弘・宮本　結佳
　　渡邊　暁彦
数学教育：篠原　雅史・神　直人・鈴木　宏昌・長谷川　武博・渡邊　慶子
理科教育：糸乗　前・大山　政光・加納　圭・恒川　雅典・徳田　陽明・服部　昭尚・古橋　潔
英語教育：大嶋　秀樹・田中　佑美・林　直生
音楽教育：中根　庸介・若林　千春・渡邊　史
美術教育：藤田　昌宏・世ノ一　善生
保健体育：大平　雅子・松田　繁樹
情報・技術教育：岩井　憲一・右田　正夫・水上　善博
家政教育：田中　宏子・平松　紀代子・與倉　弘子
障害児教育：江原　寛昭・白石　惠理子・羽山　裕子
国際理解教育：于　一楽・児玉　奈々

データサイエンス研究科：奥村　太一

※交流人事・新規採用などにより来年度変更や追加がある場合があります。

主な学生支援制度

長期履修学生制度

長期履修学生制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限（2 年）を超えて一定の期間（3 年または 4 年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、2 年間（標準の修業年限）分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額をそれぞれの年に支払うことになります。

教育職員免許状（一種）取得のための学部受講科目授業料免除制度

大学院教育学研究科に在学しながら、教育職員免許状（一種）を取得するために必要な学部の授業科目を履修する場合に、学部の授業科目の授業料が無料となります。1 年間に履修できる単位は 14 単位以内です。

＜留意点＞

- ●本学部の履修方法により、法定単位数より多く履修すべき授業科目及び単位がある場合があります。
- ●一部の科目で履修が制限されている場合があります。（中学校「理科」「音楽」「美術」「技術」など、実験・実技系の必修科目について、人数制限や面談により受入不可となる場合があります）。
- ●免許状の取得及び履修の機会を保証するものではありません。

上記制度については、所定の手続のうえ認められますので、詳細は教育学部教務係（電話：077-537-7707）まで照会ください。

教員採用試験支援　－４年連続、全員合格－

大学院生の教員採用試験支援について、教職大学院の実務家教員を中心に模擬面接、模擬集団討論、模擬授業の指導と支援を行い、強力にサポートします。令和元年度修了生 8 名全員が正規教員として採用されました。その内訳は小学校 5 名（滋賀県 5 名）、中学校 3 名（滋賀県：国語 1 名、英語 1 名、社会 1 名）です。令和 2 年度修了生は、4 名全員が正規教員として採用されました。その内訳は小学校 3 名（滋賀県 2 名、兵庫県 1 名）、中学校 1 名（滋賀県：英語 1 名）です。令和 3 年度修了生は、5 名全員が正規教員として採用されました。その内訳は、小学校 3 名（滋賀県 3 名）、中学校 2 名（滋賀県：数学 1 名、社会 1 名）です。令和 4 年度修了生は、6 名が正規教員として採用されました。その内訳は、小学校 3 名（滋賀県 3 名）、中学校 2 名（滋賀県：保健体育 2 名）、特別支援学校 1 名（滋賀県）です。

教員採用試験の大学推薦制度

本学教職大学院の修了見込みの成績優秀者のうち、滋賀県公立学校教員採用試験を受験する者は、本学の大学推薦枠を優先的に与えられる予定です。

※ただし、推薦枠の教科や人数、免除される試験科目は年度ごとの通知（滋賀県教育委員会）によります。

学費・奨学金等

日本学生支援機構給付・貸与奨学金や授業料免除制度、学生保険制度を整えています。詳しくは学生・就職支援係（電話：077-537-7708）にお問い合わせください。

学生教育研究控え室の完備

少人数グループごとに学生教育研究控え室があり、Wi-Fi、パソコン、プリンターなど整備され、教育研究に専念できるほか、現職教員学生や学部新卒学生などが交流して学ぶことができます。

教職大学院準備室／控室

情報演習室

教職大学院説明会・令和６年度入試日程・募集人員

教職大学院説明会

第1回

令和５年 ６月３日(土) ※開催終了

13：30～15：00

滋賀大学大学院　教育学研究科

第2回

令和５年 ７月29日(土)

13：30～15：00

滋賀大学大学院　教育学研究科

第3回

令和５年 ９月30日(土)

13：30～15：00

滋賀大学大学院　教育学研究科

説明会終了後も、入試に関するお問い合わせは、次の連絡先で受け付けています。

お問い合わせ先：滋賀大学大学院教育学研究科入学試験係

TEL：077－537－7711

令和６年度入試日程

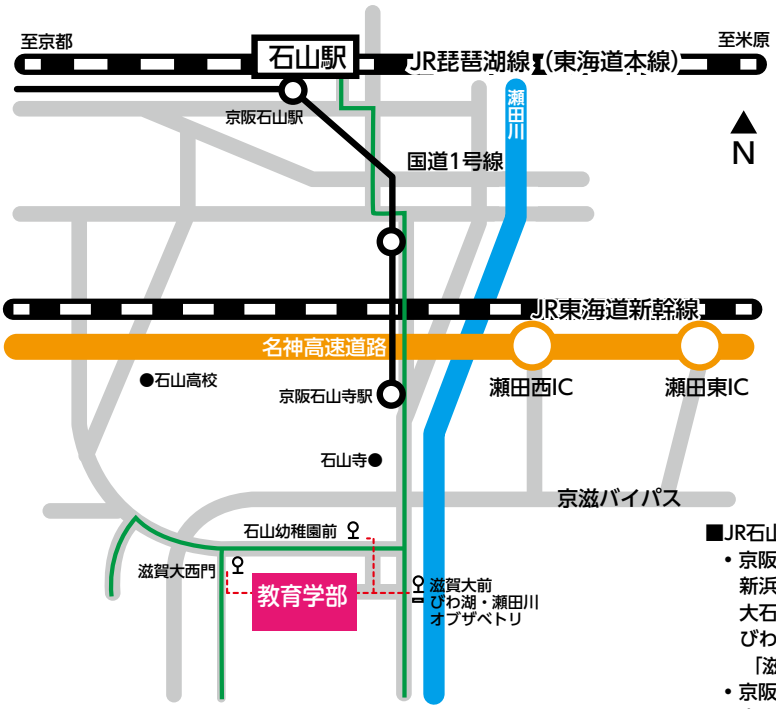
選抜区分	募集要項発表	出願期間	試験実施日	合格者発表
高度教職実践専攻（教職大学院）７月入試 (授業実践力開発コース) (ダイバーシティ教育力開発コース)	５月下旬	７月10日（月）～ ７月13日（木）	７月22日（土）	７月28日（金）
高度教職実践専攻（教職大学院）10月入試 (学校経営力開発コース) (教育実践力開発コース) (授業実践力開発コース) (ダイバーシティ教育力開発コース)		10月16日（月）～ 10月19日（木）	10月28日（土）	11月10日（金）

７月入試及び10月入試で募集人員が不足した際、２月に追加募集を行う場合があります。

募集人員

専攻	コース	募集人員 ７月入試	募集人員 10月入試
高度教職実践専攻	学校経営力開発コース	―	５名
	教育実践力開発コース	―	７名
	授業実践力開発コース	15名	
	ダイバーシティ教育力開発コース	８名	

授業実践力開発コース及びダイバーシティ教育力開発コースの募集人員は、７月入試及び10月入試の合計数です。
10月入試は全コースで必ず実施します。



アクセス
マップ

■名神高速道路をご利用の場合、
岐阜県、愛知県方面(下り)からお越しの時は、「瀬田東IC」をご利用ください。
京都府、大阪方面からお越しの時は「瀬田西IC」をご利用ください。

■JR石山駅より
- 京阪バス52・54・55系統
  新浜(南郷中学校経由)行、または 南郷二丁目東(野々宮経由)行
  大石(南郷中学校経由)行
  びわこ池田墓園行
  「滋賀大西門」下車　徒歩すぐ
- 京阪バス4系統
  大石行「滋賀大前」下車　徒歩約7分
- 京阪バス1系統
  石山団地(石山寺経由)行「石山幼稚園前」下車　徒歩約10分
- 滋賀大学行直行バス運行(土、日、祝日、休業期間は除く)

滋賀大学 大学院教育学研究科

〒520-0862　滋賀県大津市平津２丁目５－１

滋賀大学教育学部・滋賀大学大学院教育学研究科　https://www.edu.shiga-u.ac.jp/
高度教職実践専攻(教職大学院)　https://www.edu.shiga-u.ac.jp/kyoshoku/

入試日程、募集要項、説明会
日程の詳細はこちら

滋賀大学教職大学院 HP
QR コード